



日本骨髄バンクの現状（平成 25 年 4 月末現在）

	3 月	4 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,903	2,433	430,768	578,354
患者登録者数	238	253	3,042	38,541
移植例数	108	98	—	15,487

■ 4 月の年齢別ドナー登録者数（現在数）

10 代	2,946 人
20 代	71,705 人
30 代	152,302 人
40 代	162,797 人
50 代	41,018 人

■ 4 月の 20 歳未満の登録者 307 人

注) 平成 24 年 7 月より集計方法が変わりました。

■ 4 月の区分別ドナー登録者数： 献血ルーム／563 人、献血併行型集団登録会／1,817 人、集団登録会／11 人、その他／42 人

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 厚生科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会の議論の状況について

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行に向け、厚生科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会が昨年 12 月から計 7 回開催されています。これまでの委員会では、法律に基づき国が策定する造血幹細胞移植に関する基本方針についての議論が行われてきました。

具体的には、①造血幹細胞移植の需要予測は難しいものの、高齢者の増加に比例して、当面、造血幹細胞移植を必要とする患者は増加する、②患者や国民、医療従事者も含めて知りたい情報を手軽に入手できる情報の一体的提供が必要、③一元的に患者登録を行う仕組みが必要、④より早期の移植のためには医療機関における骨髄採取のための定期的な手術室の枠の確保が望ましい、⑤末梢血幹細胞移植の更なる普及が望ましい、といった議論がされました。

今後、基本方針のほか、事業の許認可やガイドラインに関わる議論等も行い、今年 9 月頃に取りまとめが行われる予定です。

2 平成 26 年度の国庫補助金要望について

当財団では、平成 26 年度国庫補助金について、①骨髄バンクニュース発送費用の増額、②ドナーコーディネートにおけるタブレット端末の活用について、以上 2 項目を新たな要望として提出することとしました。

骨髄バンクニュースは、年に 2 回、ドナー登録者の提供意思の維持と住所確認を主な目的として発行しています。現在、発送についてはもっとも安価なメール便を使用していますが、新規登録者の増加に比例して発送費用も増加するため、これを国庫補助として要望するものです。なお、今後は紙媒体の発行は年に 1 回（ほか 1 回はメールマガジン）とするため、1 回分の発送費用を要望することとします。

また、調整医師の負荷が大きい確認検査行程の現行ルールを大幅に見直すと同時に、タブレット端末を活用することで、移植率向上のための喫緊の課題である、コーディネート期間の短縮と確認検査簡素化を図ります。従来実施していた調整医師によるドナーへの面談時の説明を廃止し、コーディネーターがタブレット端末を活用してドナーへの説明を行ったり、ビデオ視聴や関連資料の閲覧等が可能になります。今回はタブレット端末の初期費用とランニング費用（年間）を要望することとします。

3 平成 26 年度の診療報酬改定への要望について

平成 26 年度は 2 年に 1 度の診療報酬改定の年にあたり、当財団も日本造血細胞移植学会やさい帯血バンクネットワークと協力して、点数増加の要望を行っていきます。平成 26 年度は、「非血縁者間造血幹細胞（骨髄・末梢血・臍帯血）移植は血縁者間移植と比べて難度の高い医療行為であり、特にコーディネート過程は医師と一体的に行う複雑な医療行為である」として「非血縁者間造血幹細胞移植加算」の設定を要望します。

4 新潟県の泉田知事がドナー登録を行いました

平成 25 年 4 月 16 日、泉田裕彦新潟県知事が、新潟市「献血ルームばんだい ゆとりろ」において、自らドナー登録を行いました。当日、同ルームの周辺で骨髄バンクの支援団体がドナー登録を呼びかける中、多くの報道陣を前に泉田知事がドナー登録手続きを行い、約 15 分で終了しました。登録後、同知事は「(ドナー登録の)手続きは簡単で円滑に短時間で完了します。多くの方々の登録をお願いします」とコメントしていました。泉田知事のドナー登録の様子はこちらの新潟県のホームページでご覧いただけます。

<http://chiji.pref.niigata.jp/2013/04/post-e8dd.html>

5 読売巨人軍・骨髄バンクシリーズ開催!

6 月 5 日（水）、6 日（木）、8 日（土）、9 日（日）の 4 日間、プロ野球読売巨人軍の「骨髄バンクシリーズ」（5 日、6 日が対日本ハム、8 日、9 日が対楽天）が今年も東京ドームで開催されます。来場者の方にはリーフレットや選手のポストカード、白血病で亡くなった丹後光祐君が生前育てた「アサガオ」の種の配布を行うほか、屋外ステージではイベントも予定されています。また、骨髄バンクチャリティグッズ（特製タンブラー）の販売や、8 日、9 日にはドナー登録会が行われる予定です。

6 「SUPER GT」が今シーズンもレース会場で骨髄バンクを支援

4 月 28 日（日）の富士スピードウェイを皮切りに、全国 5 つのレース会場で「SUPER GT」による骨髄支援活動が実施されます。4 月 28 日に開催された富士スピードウェイでは、アンドレ・クート選手による骨髄バンク PR イベントを実施、会場ではリーフレットが配布され、特設会場においてドナー登録会が開催されました。

最終レースとなる 11 月 16 日の富士スピードウェイまで計 6 回のレースにおいて、同様の支援活動が予定されており、大きな効果が期待されます。



7 Vリーグ・プレミアリーグ・ファイナルラウンドで骨髄バンクをPR

4月13日（土）、14日（日）の2日間、東京体育館において、「2012/13 V プレミアリーグ・ファイナルラウンド」が開催されました。会場では、骨髄バンクのパンフレット、シールが来場者に配布されたほか、試合開始前のステージでは PR イベントが開催されました。また、出場選手による募金活動が行われ、来場された方からたくさんのご寄付をいただきました。ご支援いただいた来場者の皆様、Vリーグ機構関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

8 非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定について

以下の施設が新たに非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科として認定されました。これまでに認定された施設は49施設です。

◆非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科

・採取施設

京都市立病院

浜松医科大学医学部附属病院

小倉記念病院

※ただし、小倉記念病院での採取については、造血幹細胞測定体制が確認できるまで保留とします。

・移植診療科

同左 血液内科・小児科

同左 血液内科・小児科

同左 血液内科

新規認定施設については、当財団ホームページ>患者さんへ>移植認定病院およびドナー登録されている方へ>面談施設一覧でもご覧いただけます。

9 World Marrow Donor Association (WMDA：世界骨髄バンク機構) 春季会議 ならびにアンソニーノーラン（英国の骨髄バンク）オフィス見学報告

WMDAでは、世界で行われる造血幹細胞に関するバンク事業が円滑に実施されることを目的に、各国の骨髄バンク・さい帯血バンク関係者、医師等が集まり、さまざまな問題や課題を集約して一定の基準作成や情報提供を行っております。4月4日、5日、イギリスのブライトンでWMDA春季会議が開催され、主に医学的な情報収集（移植成績やドナーの適格性について等）や意見交換が行われました。

また、イギリスにはアンソニーノーランという世界初の骨髄バンクがあり、来年40周年を迎えます。同バンク職員約30名はロンドン郊外にあるメインオフィスに勤務しています。2013年3月末でドナー登録者数は47万人を超え、特に若い（16歳～30歳）男性をターゲットに登録活動を行っています。オンラインでのドナー登録が全体の約40%を占め、唾液を採取する検査キットを用いてドナー登録時のHLA検査を実施しています。なお、イギリスでは、提供も16歳から可能となっています。

10 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に当財団事務局総務部までお申込みください。

	公開・非公開	開催予定
データ・試料管理委員会	公開・一部非公開	5月19日（日）13:00～ 品川インターシティ貸会議室
アドバイザリーボード	公開	5月22日（水）14:00～ 廣瀬第2ビル地下会議室
通常理事会	公開・一部非公開	6月7日（金）14:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

11 造血幹細胞提供希望者（ドナー）の本人確認について

確認検査面談時にコーディネーターが、ドナーに対して公的な証明書等の提示を求め、ご本人であることを確認することとなりました。コーディネーターの方にはご負担をおかけしますが、ご理解・ご対応の程お願いいたします。

○本人確認の意義について

これまで、ドナー登録時のHLAとコーディネート開始後に実施されるHLA検査結果により本人確認としていました。

しかし、国際基準および公的骨髄バンク事業におけるコーディネートシステムの信頼性・安全性担保、ドナー・患者双方の保護の観点から、当財団においてもコーディネート進行に際し、ドナーに対して本人確認を行うことを組織として決定しました。

本制度については世界骨髄バンク機構（WMDA）からも要請があり、また、献血事業においては、すでに初回献血時に本人確認を実施し、確認できない場合は献血をお断りしています。

○基本方針

「本人確認書類がない」もしくは「本人確認ができない」場合は、原則としてコーディネートを進めないこととします。

○運用開始時期

確認検査日程の決定が5月20日以降のコーディネートから、確認検査時に本人確認を行います。ドナーおよびコーディネーターあて帳票は5月20日出力分から変更されます。

○方法

運用方法および確認に用いる公的証明書等の詳細については別紙をご確認ください。

12 造血幹細胞提供者（ドナー）に係る感染症発症時の採取不可期間について**<採取施設の医師の方々へ>**

非血縁者間骨髄採取もしくは末梢血幹細胞採取を予定しているドナーが別紙に定める感染症を発症した場合の対応について、ドナー、患者保護並びに院内感染防止の観点からドナー安全委員会において検討され、別紙のように採取不可期間に関する基準を策定しましたので、ご確認ください。

また、採取不可期間経過後の最終的な採取可否判断につきましては、ドナーの身体状況等を総合的にご判断いただき判定をお願いします。

13 帳票変更のお知らせ**<調整医師の方々へ>**

「ドナー確認検査報告書(問診・診察所見)」を修正し、2013 年 5 月 20 日(月) 出力分より反映します。

○変更点

※以下、PB を含むコーディネートのみ(骨髄提供のみは不要です。)

旧： PBSC 採取時に両腕の正中静脈等が確保できる (はい・いいえ)

↓

新： 上肢(正中静脈等)に PBSC 採取可能な血管が確保できる (はい・いいえ)

○理由：ドナー適格性判定基準の文言と統一されていないため、文言を修正し、統一しました。

14 連絡事項

◆「コーディネート件数(月次実績)」の一部変更について

4 月実績から「コーディネート件数」に骨髄と末梢血幹細胞それぞれの採取件数を記載します。

2010 年 10 月から 2013 年 3 月までの末梢血幹細胞採取累計は 19 例です。これまでは欄外に末梢血幹細胞採取累計を記載していましたが、一覧表への月次採取件数の記載に伴い、今後は記載しません。